

地域再生計画

1 地域再生計画の申請主体の名称

栃木県那須町

2 地域再生計画の名称

那須高原地域再生計画

3 地域再生の取組を進めようとする期間

平成16年度から5年間

4 地域再生計画の意義及び目標

栃木県那須町は、栃木県の最北端に位置し、日光国立公園の区域を含む地域で年間約500万人の観光客が訪れる観光の町である。大正15年に那須御用邸が開設され、その後温泉のある避暑地として高度経済成長と共に全国有数の観光・保養地域として発達してきた。

昭和49年に東北自動車道、昭和57年に東北新幹線が開通し高速交通網の整備に伴い観光客の入込みも大幅に増加した。

那須高原には、テーマパークや牧場を中心とした大型レジャー施設、スキー場、ゴルフ場、豊富な温泉、旅館・ホテル、個性あふれるペンション、30箇所以上の美術館や博物館といった観光、スポーツ、体験施設等も充実している。最近では、高原でのチャペルウェディングも数多く行なわれている。

また、茶臼岳を中心とする那須連山への登山やハイキング客も多く、愛子様のお印で有名になったゴヨウツツジやミネザクラなどの群落もあり、大自然の魅力あふれる緑豊かな地域でもある。

さらに、那須温泉は舒明天皇のころ(西暦630年代)の発見と伝えられ、開湯1370年を数える歴史ある全国有数の温泉郷でもある。

しかしながら、国民のライフスタイルやニーズの変化、長引く景気の低迷等により、平成8年の546万人をピークに観光入込み客が最近では480万人台で低迷している。また、昨年末の足利銀行の破綻一時国有化により観光関連産業においては、これからの経済活動に支障があるのではないかと懸念されている。

これらの那須高原地域の観光産業を取り巻く周辺環境の変化に対応する施策・事業を計画的に実施するとともに、観光産業を那須町における21世紀の重要かつ戦略性の高い産業に位置づけ、名実ともに「那須町のリーディング産業」として発展させていきたい。

〔主な施策体系と重点事業〕

1. 観光交流拠点の高度化

観光資源の再発見と那須らしさを示す観光交流拠点の整備充実

(1)湯本温泉足湯ネットワーク事業(エコアップ計画を含む)

(2)那須高原友愛の森の総合ターミナル整備事業

(3)黒田原まち歩きコース整備事業

(4)道の駅東山道伊王野機能充実事業

2. 交通・景観等観光地基盤環境の拡充

誰もがひとり歩きを楽しめる公共交通等基盤整備と景観保全

(5)那須高原シャトルバス運行事業

3. 体験観光と地域ぐるみのもてなしの促進

国際水準の快適性と親切心ある体験等受入体制の整備充実

(6)体験観光受入体制整備事業

4. 観光情報戦略の高度化

メディアミックスによる観光情報提供と広域宣伝PRの強化

(7)動態情報提供システム高度化事業

5. 観光地ICの展開

那須ブランドの発信とイメージづくり

(8)殺生石伝説関連イベント開催事業

6. 産業観光の展開

魅力と波及効果を高める地域産業との連携と特産品の開発

(9)農産物直売所「(仮称)なすもの市場整備事業」

7. 広域観光ルートと地域間交流の拡大

広域観光ルートの整備と緑を活かした多彩な交流の仕組みづくり

(10)新広域観光ルート整備事業

8. 外客誘致と国際交流の促進

アジア圏等の観光客誘致と国際姉妹交流等の促進

(11)アジア客の誘致と国際姉妹交流促進事業

9. 官民協働の観光地経営体制づくり

公設観光施設の運営の向上と体験観光推進体制の組織づくり
(12)(仮称)観光まちづくり公社設立事業

この観光振興基本計画の中心が「那須高原友愛の森総合ターミナル整備事業」である。

那須高原友愛の森は那須高原の玄関口に位置する観光拠点施設である。しかしながら、その有利な立地条件にもかかわらず施設の配置や運営に問題があり有効活用されていない状況にある。そこで、この那須高原友愛の森を全体的に見直し、「那須町全体の観光情報・文化情報・交流センターとしての役割及び高速バスと域内交通システムの結接点としての機能整備」を図り、もって那須高原全体の観光振興を図りたいと考えている。

〔那須高原友愛の森総合ターミナル整備計画〕

基本コンセプト 那須町観光の総合ターミナル
整備内容

a.道の駅としての機能充実

*観光情報、トイレ、駐車場機能の充実

b.那須の特色を出した農産物直売所(なすもの市場)の整備

c.那須高原にふさわしい乳製品を中心にしたオープンカフェの整備

d.工芸館のアーツ&クラフト館としての機能拡充

e.芝生広場の整備

*スポーツ広場を彫刻広場の拡充やペットの散歩広場(ドックラン等を含む)及び駐車場の拡大用地として整備

f.交通ターミナル機能の整備

*高速バス及びJR駅等からのアクセスバスと域内交通手段(シャトルバス等)への乗り換えターミナル機能の整備

g.既存彫刻の再整備

*特色を強化するため、彫刻等説明看板の設置や施設内ルート地図の作成

h.「(仮称)観光まちづくり公社」の整備

*那須高原友愛の森の運営企画・各種交流・コンベンション企画・那須町全体の公営観光施設の一元管理等を行なう組織として整備し、友愛の森をホームグラウンドとする。

この計画を踏まえ、昭和 6 1 年度に文部省の社会体育施設整備事業により整備したスポーツ広場に、ふれあいの郷づくり事業(県単)により「農産物直売所及びアグリ情報館」を新築し、トイレ、駐車場及び芝生広場を新設する。また、昭和 6 2 年度に整備した夜間照明施設については、駐車場用の照明として用途を変更する。

5 地域再生計画の実施が地域に及ぼす経済的社会的効果

那須町における第 3 次産業就業者は、平成 1 2 年国勢調査で 54.93%であり、観光関連産業に多くの町民が従事している。

観光産業は、那須町のリーディング産業であり農業や商業とも有機的に連携している。

現在、那須高原友愛の森の年間の利用者は約 1 5 万人と推計されているが、これを再整備することにより、約 3 倍の 4 5 万人程度が利用する賑わいのある道の駅に再生できると考えている。

工芸館の地場産工芸品の販売額は、年間約 1 2 0 0 万円程度だが、これにより約 3 0 0 0 万円程度になると見込まれる。また、新設する農産物直売所では、同規模の道の駅「東山道伊王野」の物産センターの販売額の 1 億 3 0 0 0 万円程度が見込まれている。さらに食堂部門についても相乗効果により 2 7 0 0 万円程度から 5 0 0 0 万円程度へ伸びるものと予想されている。

これら那須高原友愛の森の施設再整備とともに、環境省によるエコアップ事業【インフォメーションセンター建設(環境省)、散策路・つり橋の整備(県)、旧体育センター跡地整備・登山道整備(町)など】によるハード事業や湯本地区での交通渋滞緩和策、また、那須高原観光体験プログラムの作成や日光国立公園の良好な景観形成の推進を図るなどのソフト事業により那須高原に来る観光客を 5 0 0 万人に戻したいと考えている。観光客 1 人あたり 1 万円を消費するとして、年間 5 0 0 億円の経済効果が見込める。

6 講じようとする支援措置の番号及び名称

・ 13004(別添 0802)

社会体育施設の有効活用(文部科学省)

別紙

1 支援措置の番号及び名称

13004(別添 0802) 社会体育施設の有効活用(文部科学省)

2 当該支援措置を受けようとする者

栃木県那須町

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

那須高原友愛の森は、昭和59年度から農林水産省や文部科学省の補助事業を受け各種施設を整備している敷地面積約2.9haの複合施設である。平成9年4月には、道の駅「那須高原友愛の森」として登録されるも、トイレが古く矮小であることなどから観光客等に不評である。

そのため、国庫補助を受け整備した施設についても、全体の施設配置の見直しの中で、有効活用していく。

また、再整備後は運営組織についても一新し、指定管理者制度を有効に活用し、民間活力を導入したいと考えている。これにより雇用の創出も図られるものとする。

昭和61年度社会体育施設整備事業により整備したスポーツ広場及び昭和62年度社会体育施設整備事業により整備した照明施設の転用

- ・事業実施主体 那須町
- ・場 所 栃木県那須町大字高久乙539番8
- ・実施期間 平成16年度から5年間
- ・取組により整備される施設等
 - 農産物直売所 (約 200 m²)
 - 駐車場 (約 1,900 m²)
 - トイレ (約 90 m²)
 - アグリ情報館 (約 100 m²)
 - 芝生広場 (約 1,600 m²)